

四谷の

千枚田だより



第215号



キイロスズメバチ

パニック

終息の見えないコロナ禍の影響か「四谷の千枚田」はバカ賑やかかい。昨年のお盆には、千枚田入り口付近は「おのぼりさん？」(昔はH都会に出掛けてきた田舎者。今はH都会に出掛けてくる都会人?)たちの車が数珠つなぎ、我が家の弟ファミリアはお墓参りに来たものの、渋滞で二進も三進も(に)つちもさつちもいかず、「また、来らあ〜」と帰ってしまった。その後も土日、祭日は渋滞がマンネリ化し、今年のゴールデンウィークには、聞いた話だが、駐車待ちの車を横目に、「この、くそ熱いにご苦労なこった、どいだけ、待ちやあ、停まれるずらか〜」と他人事のように我が家へ向かった。その時、車から降りてきた観光客?がいきなり「俺らは、ちゃんと並んで待っているのに、てめえは、なんだ。」と力まれたそう。力まれた村人は「そんなことを言たって、俺りやあ、家が上だで、家に帰るに、何をそんなに力むだ…」と、お互いに熱くなりかかったそう。また、中間の駐車場は何ともならず、進入禁止の口

ープを張ったりしたが、いくら何でも、そこまでは、したくない。気の毒にも、ふれあい広場の狭い市道では慣れない都会人は車の除けあいに不慣れで、糞詰まり、二時間も渋滞したそう。

そんなこんなの状態が発生、集落の生活圏まで影響を及ぼす状況で、流石に大らかな地元民も七月十六日に三連休や盆が来る。「たまったもんじゃあない、何とかならんずらかノン」と相談があった。そこで、行政にこの逼迫した状況を説明、啓蒙看板の設置をお願いした。ビックリした。行政の対応があまりにも早く、その日に決済が下り、週明けの十九日に「集落あり 生活道路に車をとめないでくれんのん」と表示した啓蒙看板が届き、設置はお願いされた。これには、地元集落の衆も対応の速さに感心しきりで、公僕は健在だと喜んでいいる。

今年も盆が近づき、昨年同様な渋滞パニックは必須で、行政市鳳来地域整備係・新城市観光課(ほか)に「四谷の千枚田」には公の駐車場は無いし、駐車台数が極、限られているこ

とから、旧連谷小学校のグラウンド使用の便宜、案内看板等の設置、整備もお願いしてみた。これも、三連休・盆休み、稲刈り等、収穫シーズンの観光客対応は、色よい返事を頂いた。いずれにしても「四谷の千枚田」は基本、農業の生産の場であり、耕作者や地域の生活圏を最優先に考えていただかなければ、国民の宝も、持て余し兼ねない。

ついでに、滝上から千枚田、神田までの県道は狭く、道路脇の灌木や杉ヒノキの枝などが観光バスの天井を擦る様である。

第二十六回全国棚田(千枚田)サミットの中止について

九月九日(木)〜十日(金)に当村を会場に開催を予定していましたが「第二十六回全国棚田(千枚田)サミット」については、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況から、参加者の皆様の安全を確保しながらの開催は非常に難しいと判断し、やむなく中止する方向で調整中でございます。

参加を予定していた皆様には大変申し訳ありませんが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

令和三年七月十二日
大蔵村棚田サミット実行委員会
事務局

四ヶ村地区は肘折温泉近くにあ

る全国有数の豪雪地帯で、世帯数は約百戸・人口約五百人の小さな集落にある棚田は百二十畝に及び、日本一の棚田百選」に認定されている。夏には棚田に千本以上のロウソクを灯してコンサートが行われる。

【大蔵村ホームページより抜粋】



鞍掛山麓千枚田保存会は全国各地から棚田に関わる百姓衆が一堂に会し、意見を交わし、交流を図り、新たな知見を得ることを目的に高橋孝行 原田英史 田中幸夫 松下誠 小山舜二の五名が参加予定であった。

キイロスズメバチの駆除

今年は、気のせいかやたらとハチが多い。

観光客から「ふれあい広場」のトイレ裏にキイロスズメバチの巣があると鳳来地域整備係にメールがあり、連絡を受けた。連絡を受けたということは、単純に駆除の願いと勝手に推察。現場に駆け付けた結果、電線を巻くドラム内に巣作りを確認。けっこう厄介で夏目宏一に応援を依頼、二十九日夜に煙幕とキンチヨールで無事、駆除した。



またまた、八月一日、市観光課と鳳来総合支所整備係に観光客からキイロスズメバチの巣があり、危険と情報提供を受け、すぐさま相談が

あった。現場確認をしたところ、「ふれあい広場」の四阿の天井に直径三十センチの巣に通いバチがブンブン飛び交い、危険極まりない。市役所の担当者は危険だ、気を付けてと、声はさすが、取ってほしいのが見え見えの顔つき、ついつい、いいよ、獲るからと男気を掲げてしまった。



八月三日、日暮れを待ち、夏目宏一と完全防具を着用、梯子に上り、四阿天井のキイロスズメバチに煙幕を焚き、無事に駆除を完了。八十歳を超えても、命の危険に満ちた冒険は血が騒ぐし、獲った達成感に呑む酒がやたらと旨かった。

観光客から絵はがき

七月十八日、名古屋市中川区在住の「こざわちはる」さんは、管理の行き届いた千枚田を見て、保存する耕作者、地域の方々、たゆまない努力に感激、一枚の絵ハガキが送られてきた。

海外研修受け入れ

名古屋大学農学国際教育研究センター長 江原宏（学術博士）先生はアジア、アフリカの中山間地域などの稲作振興を目的に海外研修生の受け入れを行っている。

昨年七月にも現地研修を実施したが、今年はコロナ禍のため海外研修生の現地受け入れはできないため、七月二十二日、千枚田概要、稲作手法について動画に収録。編集し



た動画は参加国語を画面に表示、オンラインで研修が行われる。

行 令和三年八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山 舜二